

組上燈籠絵復刻版の販売を開始しました！



東京駅「松竹歌舞伎屋本舗」



歌舞伎座場内「1階お土産処木挽町」

昨秋実行したクラウドファンディング【第5弾】プロジェクトのご支援により作成した「組上燈籠絵」復刻版『菅原伝授手習鑑 車引』『石橋』『一谷嫩軍記 組討』を、東京駅一番街B1東京キャラクターズストリートの「松竹歌舞伎屋本舗」の店舗と歌舞伎座場内「1階お土産処木挽町」で販売して頂く事になりました！

「松竹歌舞伎屋本舗」ではお会計レジの後方の棚に完成見本をディスプレイして頂きました。また、歌舞伎座場内「1階お土産処木挽町」では、店舗一番奥の窓際に完成見本をディスプレイして頂きました。いずれもお立ち寄りの際は、ぜひご注目下さい！

英語版解説もご用意しておりますので、復刻版をお買い求めの方で英語版解説をご入用の方はそれぞれお店のスタッフにお尋ね下さい。

今回販売して頂く「組上燈籠絵」復刻版は、松竹大谷図書館が所蔵する歌舞伎関連の「組上燈籠絵」161点の内より厳選した3作品を、プロジェクトの支援金により復刻したものです。「組上燈籠絵」とは、江戸期から昭和期まで流行したおもちゃ絵といわれる錦絵の一種で、そのまま錦絵として鑑賞するだけでなく、絵の中の部品(パーツ)を切り出して貼り付け、立体に組み立てて遊ぶものです。今回は、復刻した組上燈籠絵を【芝居絵ペーパークラフト】と名付けました。

それでは【芝居絵ペーパークラフト】3点をご紹介します！

芝居絵ペーパークラフト 組上燈籠絵復刻版

『菅原伝授手習鑑 車引』 5枚組 1,500円(税込)

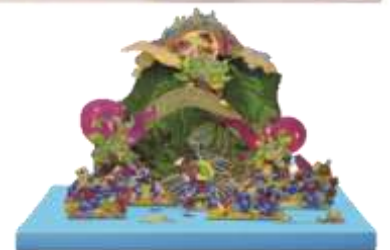
歌舞伎の三大名作の一つ『菅原伝授手習鑑』の「車引」の場が描かれた5枚組の大型の組上燈籠絵で、登場人物だけでなく、舞台となった吉田神社の鳥居や玉垣、石燈籠や植栽に至るまで細かく部品が配置された作品です。



芝居絵ペーパークラフト 組上燈籠絵復刻版

『石橋』 1枚 500円(税込)

この組上燈籠絵は『石橋』を題材にしたもので、作品名は明記されていませんが、出版時期や「尾上菊五郎」の名があること、獅子が三人いるところから、明治24(1891)年12月深野座で5代目尾上菊五郎が2代目尾上菊之助、5代目尾上栄三郎(後の6代目尾上梅幸)という二人の養子と共に踊った『雪礫巖石橋(ゆきつづていわおのしゃっきょう)』を想定して描かれたものと思われます。



芝居絵ペーパークラフト 組上燈籠絵復刻版

『一谷嫩軍記 組討』 1枚 500円(税込)

『一谷嫩軍記』は一ノ谷での源平合戦を題材とした作品ですが、この作品はその中の源氏の武将熊谷次郎直実と、平家の公達平敦盛の「組討」の場を描いたものです。1枚ものですが、躍動感あふれる騎馬武者のほか、実際の歌舞伎の舞台上には登場しない周囲の海岸や、大海原に浮かぶ豪華な御座船とその周りに展開する大船団まで描き込まれていて、スケールの大きい場面が展開しています。



芝居絵ペーパークラフトは、松竹大谷図書館でも販売しております！どうぞ宜しくお願い致します。

■ 松竹系 6月 演劇公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
歌舞伎座	『名月八幡祭』	○			
	『義経千本桜 吉野山』				
	『浮世風呂』	○			
	『御所桜堀川夜討 弁慶上使』	○		○	○
	『鎌倉三代記 絹川村閑居』	○			
	『曾我綉侠御所染 御所五郎蔵』	○			
	『一本刀土俵入』	○			
新橋演舞場	熱海五郎一座『消えた目撃者と悩ましい遺産』			○	○
三越劇場（日本橋）	新派『黒蜥蜴』	○		○	○
平成中村座（名古屋）	『寿曾我対面』	○			
	『恋飛脚大和往来 封印切』	○			
	『お祭り』			○	
	『義経千本桜 川連法眼館』	○			
	『弁天娘女男白浪』	○			
	『仇ゆめ』	○			
松竹座（大阪）	『銀二貫』	○		○	○
	OSK日本歌劇団『レビュー春のおどり』			○	
博多座	『菅原伝授手習鑑 車引』	○			
	『藤娘』				
	『彦山権現誓助剣 毛谷村』	○			
	『天衣紛上野初花 河内山』	○			
	『信州川中島合戦 輝虎配膳』	○		○	○
	『八代目中村芝翫四代目中村橋之助三代目 中村福之助四代目中村歌之助襲名披露口上』				
	『祝勢揃壽連獅子』	○			
	『幸助餅』	○			

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 他社演劇公演資料 ■

赤坂RED/THEATER	5月	東京マハロ『あるいは真ん中に座るのが俺』プログラム
	6月	劇団道学先生『梶山太郎氏の憂鬱と微笑』プログラム
あうるすぽっと	5月	木ノ下歌舞伎『東海道四谷怪談』プログラム
大阪新歌舞伎座	5月	『芸能生活55周年記念舟木一夫特別公演』プログラム 『三山ひろし特別公演』プログラム
	6月	『梅沢富美男・田川寿美特別公演』プログラム 『五木ひろし特別公演坂本冬美特別出演』プログラム
神奈川県民ホール	5月	『近代能楽集より 葵上・卒塔婆小町』プログラム
紀伊國屋サザンシアター	6月	劇団民藝『熊楠の家』プログラム、台本
紀伊國屋ホール	5月	『ダニーと紺碧の海』プログラム
国立劇場小劇場	5月	『文楽公演』プログラム、床本集、上演資料集
国立劇場大劇場	5月	『名作歌舞伎舞踊』プログラム
	6月	歌舞伎鑑賞教室『毛抜』プログラム、上演資料集
国立文楽劇場	5月	『新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会』プログラム
こまばアゴラ劇場	5月	うさぎストライプと親父ブルースブラザーズ『バージン・ブルース』プログラム
サンモールスタジオ	5月	劇団チョコレートケーキ『60's エレジー』プログラム

(新着資料案内 他社演劇公演資料 続き)

ザ・スズナリ	5月	M&O P l a y s 『少女ミウ』プログラム
座・高円寺2	5月	楽塾『すもももももものうち』プログラム、台本
シアタークリエ	6月	『CLUB SEVEN ZERO』プログラム
シアターコクーン	5月	『妄想歌謡劇 上を下へのジレット』プログラム
	6月	ABKAI 2017 『石川五右衛門外伝』プログラム、台本
シアタートラム	5月	シス・カンパニー『黒塚家の娘』プログラム
下北沢駅前劇場	5月	吉川威史 presents 『素晴らしい一日2017』プログラム
	6月	動物電気『タイム!魔法の言葉』プログラム
新宿眼科画廊スペース地下	6月	i a k u 『肅々と運針』プログラム
スペース・ゼロ	5月	玉造小劇店『おもてなし』台本
東京芸術劇場プレイハウス	6月	沢田研二50周年記念公演『音楽劇 大悪名』台本
東京芸術劇場シアターイースト	6月	イキウメ『天の敵』プログラム
東京芸術劇場シアターウエスト	5月	『クヒオ大佐の妻』プログラム
東京国際フォーラム	5月	『サクラパパオー』プログラム
俳優座劇場	5月	『バグバスターズ』プログラム
博品館劇場	6月	方南ぐみ『あたつくNo. 1』プログラム
		『イケメン戦国 真田幸村編』プログラム
		『23階の笑い』プログラム
明治座	6月	『氷川きよし特別公演』プログラム

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『おとなの恋の測り方』	○				
『こどもつかい』	○		○		○
『兄に愛されすぎて困ってます』	○		○		○

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 映画プログラム ■

『22年目の告白 私が殺人犯です』	『心に吹く風』	『キング・アーサー』
『ジーサンズ はじめての強盗』	『美しい星』	『パトリオット・デイ』
『ちょっと今から仕事やめてくる』	『ゴールド 金塊の行方』	『LOGAN ローガン』
『フィフティ・シェイズ・ダーカー』	『昼顔』	『怪物はささやく』
『レイルロード・タイガー』	『いつまた、君と 何日君再来』	

■ 演劇雑誌 ■

『B I T E』Vol.2	『演劇界』2017年8月号
『C o n f e t t i』2017年AUGUST Vol.152	『喝采』2017年10月
『C o n f e t t iかわら本』2017年6月号	『芸劇BUZZ』2017年7月-8月-9月号
『SAKURA TIMES』Vol.1-Vol.13	『国立演芸場公演ガイド』平成29年7月号
『T I C K E T S GO!GO!』Vol.69	『大向う』平成29年7月号
『t h e座』2017年92号	『伝統文化新聞』2017年(133号)
『あぜくら』2017年6月号	『日本演出者協会 協会誌 D (ディー)』3号-5号,7号-17・18号合併スペシャル号(2)
『シアターアーツ』2017年春(61号)	『日本芸術文化振興会ニュース』平成29年7月号
『シアターガイド』2017年8月号	『日本照明家協会誌』2017年6月号
『ステージぴあ』2017年5+6月号	『日本舞踊』69巻7月号
『ステージぴあ関西版』2017年5月+6月号	『邦楽の友』平成29年7月号
『テアトロ』2017年7月号	
『ラ・アルプ』2017年7月号	

(新着資料案内 続き)

■ 映画雑誌 ■

- | | |
|---------------------------------|------------------------|
| 『FLIX』2017年8月号 | 『ピクトアップ』2017年8月号 |
| 『SCREEN』2017年8月号 | 『ムービー・スター』2017年8月号 |
| 『omoshii mag オモシイ・マガ』
Vol.10 | 『映画テレビ技術』2017年7月号 |
| 『エキブ・ド・シネマ』2017年No.216 | 『映画時報』2017年7月号 |
| 『キネマ旬報』2017年7月上旬号,7月下旬号 | 『映画秘宝』2017年8月号 |
| 『シナリオ』2017年8月号 | 『衛星劇場プログラムガイド』2017年7月号 |
| 『シナリオ教室』2017年7月号 | 『月刊ドロキ・ユキコ』30号-35号 |
| 『ドラマ』2017年7月号 | 『日経エンタテインメント!』2017年7月号 |

≫≫ 新規登録資料案内 新しく登録した資料をご案内いたします

■ 書籍 ■

- 『Retrospective KEN TAKAKURA 追悼特別展 高倉健』
毎日新聞東京本社事業本部+東京ステーションギャラリー+アヴァンティ・プラス (編)
- 『植物図鑑 運命の恋、ひろいました オフィシャルブック』 幻冬舎
- 『花とアリス写真館』岩井俊二 (監修+テキスト)、アイビー・チェン+篠田昇+井上貴之 (撮影) 扶桑社
- 『MIHO NAKAYAMA : LETTERS in Love Letter』ワニブックス
- 『ラブレター』 岩井俊二 (著) 扶桑社
- 『年鑑代表シナリオ集'15』日本シナリオ作家協会「'15年鑑代表シナリオ集」出版委員会 (編) 日本シナリオ作家協会
- 『高畑勲 「太陽の王子ホルスの大冒険」から「かぐや姫の物語」まで』 キネマ旬報社
- 『演劇の力』 蜷川幸雄 (著) 日本経済新聞出版社

資料をご寄贈くださった方々 (敬称略・順不同/2017年4月~5月)

※許可を得た方のみ掲載しております

松竹株式会社、松竹ブロードキャスティング株式会社、日本映画テレビプロデューサー協会、国立劇場、早稲田大学映画学研究会、シナリオ・センター、(株)マルヨンプロダクション「シナリオ」編集部、株式会社日本舞踊社、キネマ旬報社、公益財団法人 ポーラ伝統文化振興財団、早稲田大学演劇博物館、文学座、日本映画テレビ技術協会、関西・歌舞伎を愛する会、演劇出版社、無声映画鑑賞会、シアタークリエ、独立行政法人日本芸術文化振興会国立文楽劇場、一般社団法人日本民間放送連盟、博多座、劇団四季、東京都江戸東京博物館、人形劇団ひとみ座、四季株式会社、神戸女子大学古典芸能研究センター、河出書房新社、出口逸平、若林さだ吉、デアゴスティーニ・ジャパン、ロングランプランニング株式会社、劇団民藝、こまつ座、公益社団法人日本照明家協会、山口蓬春記念館、下野公久、社会評論社、劇団ワンツーワークス、日本アカデミー賞協会、文藝春秋、株式会社アルテスパブリッシング、株式会社カモミール社テアトロ編集部、伝統文化新聞、常磐津節保存会、NODA・MAP、(株)近代映画社、大矢芳弘、野上記念法政大学能楽研究所、玉川大学教育博物館、世田谷文学館、立教大学大学院現代心理学研究科、高橋留男、公益社団法人 国際演劇協会、帝国劇場、人形劇団ブーク、フィルムセンター、公益財団法人統計情報研究開発センター 坂部裕美子、劇団銅鑼、劇団東演、銀座百店会、日本劇作家協会、邦楽の友社、おもだか会、オペラシアターこんにゃく座、水島あやめ生誕百周年記念事業実行委員会、三越劇場、新国立劇場情報センター、劇団青年座、劇団俳優座、日本ウニマ (国際人形劇連盟)、前進座、劇団若獅子、山口博哉、明治座、歌舞伎学会、岩波ホール、アンドレ・バザン研究会、OSK日本歌劇団、早稲田大学演劇映像学会、梅村三郎、日本近代文学館、銀座 博品館劇場、企業メセナ協議会、劇団昴、青弓社、日本映画撮影監督協会、株式会社ヴィレッヂ、岩波書店、東宝株式会社、ミュージカルカンパニー イッツフォーリーズ/オールスタッフ、りゅーとぴあ、株式会社東急文化村、俳優座劇場、神奈川県演劇連盟

どうもありがとうございました

■ 築地松竹ビル防災訓練 ■

松竹大谷図書館が入る銀座松竹スクエア（築地松竹ビル）は、年に2回防災訓練を実施しているが、本年第1回目の防災訓練が6月15日に行われ、当館からは武藤と井川の2名が参加した。ビルの入口付近には訓練が行われるとの掲示が前日の朝から貼られ、既に準備万端である。

午前9時32分大きな地震があり、35分には図書館のある3階の給湯室から火災が発生したとの設定で、館内に非常放送が入った。身の回りの安全を確認した後、3階から非常用の階段を使って1階へ避難する。吹き抜けのある1階ホールに設置された自衛消防隊本部に「松竹大谷図書館2名避難完了しました」と報告をする間にもビルの各階から続々と避難する人が集まり、9時42分ビル全体19社から参加者240名の避難と報告が完了した。

続いて二手に分かれて、消火器の使い方と非常時のエレベーター対応の見学を行い、築地消防署署員の方の説明を受けた。

最後に再び1階ホールに集まり、今回の消防訓練について築地消防署署長より講評があった。今回実施したのは自衛消防訓練といわれるものだが、災害という人の力でコントロールできないものも、その正体をよく知ることによって災害に対する恐怖を克服することができる。たとえ起きる可能性が低くても危険度の高いものについてはしっかりと危機管理をする必要がある。防災に対する危機管理には、危機が発生しないように消防計画を立てるリスクマネジメントと、被害を最小限に抑えるためのクライシスマネジメントの二つがある。大規模な防災設備などハードウェア対策は徐々に整ってきているがそれだけでは不十分であり、訓練を繰り返して防災技術と知識を蓄え、心の中の防災に対するソフト面の充実を図りソフトウェアをアップデートすることが必要である。

例えばこの築地松竹ビルの建っている東京を含む関東平野は、地殻変動によってできており固い岩盤がなく、主に火山灰や土、天然ガスが集積しているため地盤が貧弱で、地震が起きると被害の規模が大きくなる可能性がある。また地下にも水や天然ガスが充満しており、通常は排水ポンプで水を排出しているが、災害でポンプが故障すれば土地全体が水没の恐れもある。築地は字の如く埋め立て地なので、より地盤が弱いということも認識しなければならない。

また、自宅やオフィスなど慣れている場所でも、火事の煙で視界の利かない中で避難できるかどうか、目をつぶってシュミレーションしてみることも必要かもしれない。さらに、オフィスの中では多数の配線や電源プラグを使用しているが、規模の小さい地震でもコンセントが緩んでホコリがたまり、ショートして発火する危険性がある。火災の規模が小さくても一度発火した箇所は炭化しているため、次に通電をした際にさらに発火する可能性が高くなってしまう。こういった日常の中に突然起こりうる危険を想像して、対策と備えをすることが大事とのお話が続いた。



この署長のお話は予想以上に有意義で具体的なものだったので、参加者一同、大変熱心に耳を傾けていた。私も聞くことができ今回の訓練に参加して本当に良かったと思った。最後に当ビルの管理センター室長より訓練の総括があった。築地松竹ビルの管理センター室には、設備や保守、警備も含めて計17名が交替で24時間365日休むことなくビルの安全を守ってくれている。松竹大谷図書館も日頃から大変にお世話になっているところなので、改めて管理センターの皆さんに感謝すると共に、防災に対する意識をアップデートして、できる対策から取り入れていきたいと思った。

第 65 回所蔵資料展示
「時代劇スター 萬屋錦之介」展

展示期間：2017年6月30日～8月15日／於 閲覧室

今回は、本年没後 20 年を迎える時代劇スター、萬屋錦之介の資料を展示します。

萬屋錦之介は、昭和 7[1932]年 11 月 20 日、歌舞伎の名女形三代目中村時蔵の四男として東京に生まれました。本名は小川錦一といい、長兄は四代目中村歌六（没後追贈）、次兄は四代目中村時蔵、三兄は初代中村獅童、弟は同じく映画俳優となった中村嘉葎雄です。昭和 11[1936]年 11 月歌舞伎座にて初舞台を踏み、戦前戦後にかけて歌舞伎俳優として舞台に出演していましたが、1954 年 2 月 10 日公開の『ひよどり草紙』で美空ひばりの相手役で映画俳優としてデビューしました。そして同年公開された『笛吹童子』が大ヒット、瞬く間に「錦ちゃんブーム」を巻き起こします。東映の時代劇スターとして活躍すると同時に、内田吐夢や伊藤大輔など多くの名監督の映画に出演し、演技派の俳優としても活躍しました。

一方、舞台へも昭和 31[1956]年 7 月に父・兄弟との地方巡業で復帰し、昭和 39[1964]年 7 月「三代目中村時蔵・四代目中村時蔵追善公演」で歌舞伎座に出演します。以来毎年 6 月の歌舞伎座での自身の公演が恒例となり、次兄四代目中村時蔵の早世後の一門を率い、盛り立てていきます。昭和 46[1971]年 10 月には歌舞伎座「三代目中村時蔵十三回忌追善興行」にて屋号を「播磨屋」より「萬屋」に改め、翌年 11 月には自らも芸名を萬屋錦之介に改名しています。また、昭和 41[1966]年東映を退社しフリーとなった後は、同年 9 月の TV ドラマ『暗闇の丑松』でテレビへ初出演し、昭和 48[1973]年 3 月に放映開始された TV ドラマ『子連れ狼』が高視聴率を獲得するなど、テレビの世界でも第一線で活躍しました。

昭和 57[1982]年 6 月、歌舞伎座公演中に倒れ入院しますが、昭和 59[1984]年 3 月放映の TV ドラマ『子連れ狼』で復帰、舞台へも翌年の梅田コマ劇場公演で復帰しました。平成元[1989]年 6 月には 7 年振りに歌舞伎座へ出演。平成 8[1996]年、病気のため NHK 大河ドラマ『毛利元就』の尼子経久役を降板し、翌年 3 月 10 日に逝去しました。64 歳でした。

映画が娯楽の中心だった時代、東映のみならず日本映画の全盛期を代表する大スターとして活躍した萬屋錦之介の、演劇・映画の両分野に亘る資料をご紹介します。

【展示資料一覧】

●参考資料「演芸画報」昭和 11[1936]年 12 月号[複製]（※展示ケース上部）

『**巖島招檜扇**』昭和 11[1936]年 11 月歌舞伎座

◆初代中村錦之助を名乗り三人の兄（長兄 3 代目中村種太郎=4 代目中村歌六、次兄 2 代目中村梅枝=4 代目中村時蔵、三兄初代中村獅童）と共に初舞台。前列左より 2 番目が初代中村錦之助。公演中に 4 歳を迎えた

《展示ケース上段》

図書「**あげ羽の蝶**」中村錦之助著/昭和 32[1957]年 1 月 30 日講談社
讀賣新聞での連載「あげ羽の蝶」を図書にまとめ発行

歌舞伎『**新薄雪物語**』昭和 23[1948]年 5 月東京劇場

●スチール写真[左より：侍女初枝(初代中村錦之助=萬屋錦之介), 侍女まがき(3 代目中村時蔵)]

映画『**ひよどり草紙**』昭和 29[1954]年新芸プロ/監督：内出好吉/脚色：八住利雄/原作：吉川英治

◆映画デビュー作品 ●スチール写真[左より：初代中村錦之助=萬屋錦之介, 美空ひばり]

●参考資料(※展示ケース上部)：プレスシート[複製] ◆左上に中村錦之助の紹介あり

映画『**新諸国物語 笛吹童子**』昭和 29[1954]年東映/監督：萩原遼/脚色：小川正/原作：北村寿夫

●スチール写真[左より：田代百合子, 初代中村錦之助=萬屋錦之介]

映画『**里見八犬傳**』昭和 29[1954]年東映/監督：河野寿一/脚本：村松道平/原作：滝沢馬琴

●スチール写真[左より：田代百合子, 初代中村錦之助=萬屋錦之介]

映画『**唄ごよみいろは若衆**』昭和 29[1954]年東映/監督：小沢茂弘/脚色：西条照太郎/原作：子母沢寛

●スチール写真[左より：千原しのぶ, 初代中村錦之助=萬屋錦之介, 喜多川千鶴]

映画『**羅生門の妖鬼**』昭和 31[1956]年東映/監督：佐伯清/脚本：五都宮章人

●スチール写真[左より：初代中村錦之助=萬屋錦之介, 東千代之介]

映画『**曾我兄弟 富士の夜襲**』昭和 31[1956]年東映/監督：佐々木康/脚本：八尋不二/原作：五都宮章人

●スチール写真[初代中村錦之助=萬屋錦之介]

映画『**獅子丸一平 完結篇**』昭和 31[1956]年東映/監督：萩原遼/脚色：結束信二/原作：川口松太郎

●スチール写真[中央：初代中村錦之助=萬屋錦之介]

映画『徳川家康』昭和40[1965]年東映/監督+脚色:伊藤大輔/原作:山岡荘八

- スチール写真[初代中村錦之助=萬屋錦之介] ◆撮影中のスナップ

映画『冷飯とおさんとちゃん』昭和40[1965]年東映/監督:田坂具隆/脚色:鈴木尚之/原作:山本周五郎

- スチール写真[左より:初代中村錦之助=萬屋錦之介, 三田佳子]

映画『宮本武蔵 巖流島の決斗』昭和40[1965]年東映/監督+脚色:内田吐夢/脚色:鈴木尚之/原作:吉川英治

- スチール写真[左より:初代中村錦之助=萬屋錦之介, 高倉健]

映画『祇園祭』昭和43[1968]年日本映画復興協会/監督:山内鉄也/脚色:鈴木尚之+清水邦夫/原作:西口克己

- スチール写真[左より:三船敏郎, 田村高廣, 初代中村錦之助=萬屋錦之介, 御木本伸介]

《展示ケース下段》

演劇『織田信長』昭和41[1966]年7月歌舞伎座 ●スチール写真[信長(初代中村錦之助=萬屋錦之介)]

演劇『御存知一心太助 江戸ッ子繁盛記』昭和42[1967]年6月歌舞伎座

- スチール写真[左より:太助の女房お仲(中村玉緒), 一心太助(初代中村錦之助=萬屋錦之介)]

演劇『竜馬がゆく』昭和43[1968]年6月歌舞伎座

- スチール写真[左より:坂本竜馬(初代中村錦之助=萬屋錦之介), 中岡慎太郎(中村賀津雄=中村嘉葎雄)]

歌舞伎『紅葉狩』昭和46[1971]年10月歌舞伎座

- スチール写真[左より:更科姫実(戸隠山の鬼女(17代目中村勘三郎), 余吾將軍平維茂(初代中村錦之助=萬屋錦之介)]

演劇『人生劇場・残侠篇』昭和49[1974]年6月歌舞伎座

- スチール写真[左より:吉良常(島田正吾), 飛車角(萬屋錦之介)]

演劇『叛逆児』昭和55[1980]年6月歌舞伎座

- スチール写真[左より:徳姫(3代目中村梅枝=5代目中村時蔵), 信康(萬屋錦之介)]

演劇『臉の母』平成元[1989]年6月歌舞伎座 ●スチール写真[番場の忠太郎(萬屋錦之介)]

演劇『極付幡随長兵衛』平成6[1994]年6月歌舞伎座 ●スチール写真[左より:長兵衛女房お時(5代目中村時蔵), 幡随長兵衛(萬屋錦之介), 倅長松(4代目中村梅枝)]

- ◆最後の歌舞伎座出演

演劇『丹下左膳』昭和48[1973]年6月歌舞伎座

- プログラム, スチール写真[左より:丹下左膳(萬屋錦之介), 櫛巻お藤(小川真由美)]

- ◆中村錦之助改め萬屋錦之介特別公演。前年11月に芸名を萬屋錦之介に改名

映画『ゆうれい船』昭和32[1957]年東映/監督:松田定次/脚本:須崎勝彌/原作:大佛次郎

- スチール写真[左より:初代中村錦之助=萬屋錦之介, 大友柳太朗]
- 雑誌「別冊近代映画」昭和32[1957]年10月号(ゆうれい船特集号)

TVドラマ『子連れ狼(第1期)』1973/04/01~1973/09/30 日本テレビ放送

- 雑誌「TVガイド」昭和48[1973]年4/20号

映画『日蓮』昭和54[1979]年永田雅一プロダクション/監督+脚本:中村登/原作:川口松太郎

- スチール写真[萬屋錦之介]

映画『千利休 本覺坊遺文』平成元[1989]年西友/監督:熊井啓/脚本:依田義賢/原作:井上靖

- プログラム 最後の映画出演作品



昭和48[1973]年6月歌舞伎座プログラム
中村錦之助改め萬屋錦之介特別公演

展示ケースのスペースの都合で展示できなかった資料をご紹介します。
こちらは、昭和39[1964]年7月歌舞伎座上演の『叛逆児』の台本です。昭和36[1961]年に萬屋錦之介(当時中村錦之助)主演で公開された『叛逆児』は、大佛次郎の戯曲『築山殿始末』を映画化した作品で、この映画を土台として舞台化されたのがこの写真の台本の『叛逆児』です。映画を監督した名匠伊藤大輔が舞台の脚色・演出も担当しました。このときの公演は、父三代目中村時蔵と次兄四代目中村時蔵の追善公演で、萬屋錦之介は昭和28[1953]年に歌舞伎座へ出演してから11年振りの歌舞伎座出演となりました。こちらの台本の他にも、萬屋錦之介主演作の台本は映画・舞台の両分野を所蔵しておりますので、ご興味おありの方は、カウンターにお尋ねください。



■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。

当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 現在ご支援いただいている方々（了承を得た方のみ掲載）

2017（平成29）年6月にご支援いただきました

法人・団体（50音順・敬称略）

株式会社歌舞伎座

歌舞伎座サービス株式会社

歌舞伎座舞台株式会社

松竹株式会社

松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター

松竹音楽出版株式会社

松竹芸能株式会社

株式会社松竹サービスネットワーク

松竹ブロードキャスティング株式会社

株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

どうもありがとうございます

■ 夏期特別整理休館のお知らせ ■

平成29年8月16日（水）より

8月29日（火）まで

資料整理のため休館いたします。

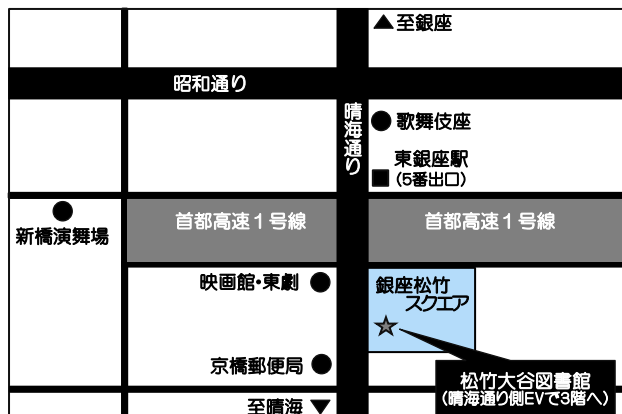
8月30日（水）より通常どおり

開館いたします。

※尚、31日は毎月最終木曜日のため休館となります

■ 編集後記 ■

▼7月5日早稲田大学大隈記念小講堂にて開催された第80回逍遙祭「シエイクスピアの上演と翻訳」に行ってきました。歌舞伎俳優の中村京蔵丈と副館長児玉竜一氏の対談が続いて、朗読劇「ヴェニス」の商人「法廷の場が坪内逍遙訳によって上演され、シャイロック役を普段は女形を勤める京蔵丈、ポーシャ役を尾上右近丈、そしてアントーニオその他の3役を江添皓三郎丈が演じられました。坪内逍遙訳の台詞が歌舞伎俳優によって生き生きと語られる光景を目の当たりにすることができて、とても楽しい貴重な体験でした。（み&ま）



● 利用案内 ●
開館時間
平日午前10時～午後5時
休館日
土曜日、日曜日、祝祭日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期夏期特別整理期間
※その他、臨時休館のある場合は一ヶ月前から館内およびWebサイトに掲示します。

● 交通案内 ●
東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分
東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分

● 入館料 無料 ●
● 閲覧 館内閲覧のみ ●

編集・発行 公益財団法人 松竹大谷図書館

〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア3階 / TEL 03-5550-1694

公式 HP ● <http://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/>

公式 Facebook ● <https://www.facebook.com/Shochikuotanitoshokan/>